令和７年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立花尾中学校の結果分析と今後の取り組みについて

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、３年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（４月１４日から４月１７日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問調査

生徒質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概

(1)　全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

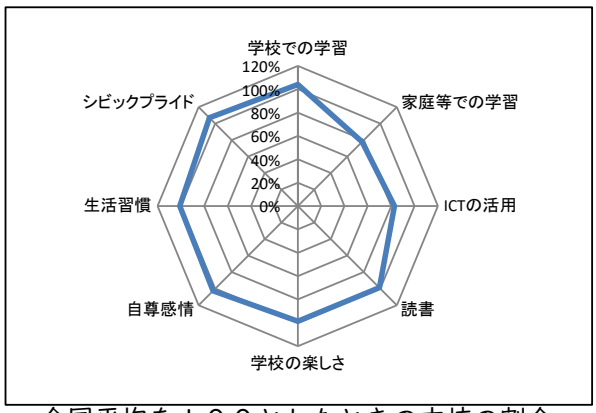
(2)　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	自分の考えを約束に従って書き表す問いに苦手さがある。「書く」活動を増やすことや、読書活動から得られる表現の工夫にも結びつけたい。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	本文中の問いに対して根拠を探したり、効果を考えたりする問題に対する正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	自分の考えや、そう考えた理由を自分の言葉で文章化する問いに対する正答率が低かった。	

数学	全体的な傾向や特徴など	記述式の問題で5問中３問の正答率が全国を上回っており、授業で解を導く過程を発表させるような「思考・判断・表現」を必要とする活動をより増やしていきたい。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	関数の正答率が全国48.2%に対し、54.2%と比べ高かった。	
	努力が必要な問題	図形に関する問題の正答率が低く、１年生時に学んだ内容を再確認が必要である。	

理科	全体的な傾向や特徴など	記述問題等、思考力が問われる問題で12問中10問の正答率が全国を上回っているが、無回答の割合が0.9%と全国0.3%と目立ち、最後まで粘り強く考え解答する姿勢を育成する必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	学んだ内容が身の回りの事象で、どのように活用されているかを問う問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	直列・並列回路が電流・電圧にどのように関係するか理解できていない生徒が多く、様々な回路で考えることが課題である。	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を１００としたときの本校の割合

質問調査の結果分析

・学校での学習は、ほとんどの項目で全国の数値を上回っており生徒の学習意欲の高さと、教員による個に応じた指導の工夫が表われている。特に「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」については、69.9%と全国63.0%より6.9%高く、授業で主体的に学習に取り組む態度がみられる生徒が多い。
・自尊感情が高く、教師との関係性のよさも見られる。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の項目では80.5%と高く、他者のために貢献する姿勢がみられ、落ち着いた学校生活を保つ要因の一つとなっている。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・国語、数学、理科とも全国平均を上回る結果となった。今後さらに学習形態（ペア・グループ学習や話し合い活動等）を工夫し、生徒が主体的・対話的に取り組む授業へ改善を図る。また、校内で互見授業週間を設け、教員の主体的な学びを心掛けた。学んだことをもとに授業改善に取り組んでいる。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・「朝食を毎日食べている」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の項目が全国を下回っており、生活習慣の大切さを保健だより等でも呼びかけていく。
・家庭での学習時間も全国を下回っており、復習することの大切さや自主学習の取組の一層の強化が必要である。